ハピカム ミライデザイン会議

杵築市

1次産業

Primary Industries

国東半島の南側に位置し、豊かな海と山々を有する杵築市。ミカン栽培や米作り、畜産など、先人が切り開いた大地の営みの恵みは日々県民の食卓を彩る。少子高齢化や激変する流通形態など厳しい環境の中、若手リーダーたちは新技術の導入や農村の営みそのものを体験型の商品として売り出すなど、懸命に活路を探る。

杵築ハウスみかん

農業のストーリーを売る

酪農教育ファーム認証

吉良　自己紹介と皆さんの取り組みや自慢、課題に感じていることを教えてください。私は35歳で別府市出身。家族は妻と娘が2人います。

佐藤　米作りと、冬場は主にシイタケを作っています。シイタケはAコープに出していて、お客さんからおいしいとほめてもらえると作りがいがあります。米作りでは機械を思い通りに使えるように技術を学びたいと思っています。

田畑　家族は両親と妻、息子が3人。酪農と和牛の繁殖をしていて、酪農がメーンです。毎日忙しいですね。今日は総合体育館の向こう側の田んぼで麦を収穫していて、麦を取った後のわらを牛の餌用に収穫しています。秋は稲わらと飼料稲。集落営農組織との耕畜連携で助かっています。

吉良　田畑さん側から提供できるものは。

田畑　堆肥です。コンバインの後を付いていってわらをロールにして、その後をトラクターが耕していく。天気が良ければ1週間くらいで終わるかな。朝の10時から深夜2時まで働かないと田植えに間に合わない。牧場との往復ですが、それで餌代がただですから大きいですね。

若手リーダー
酪農家（たばた牧場）
田畑修一 さん

吉良　乳牛が70頭近くいるということですが、地元産の餌というのは珍しいですか。

田畑　今の麦わらは和牛用で、秋の飼料稲は乳牛へ。全部国産というのは県内にもいないんじゃないかな。安心安全のためもありますが、正直に言うと飼料が高騰しているから。コストが上がっても牛乳の値段は下がっているので採算が合わない。若いから頑張らないと。

吉良　牧場の「売り」は。

田畑　体験学習ができる「酪農教育ファーム」の認証を受けていて、大分県では第1号。子どもたちや学生を受け入れ、酪農体験を通して命や食べ物について学んでもらう取り組みです。牧場で飲む牛乳と家で飲むのは味が違う。自分で搾って、「牛乳ってこうやってできるんだ」「牛って温かい」と感じることで、牛乳嫌いの子が飲めるようになったと聞くと、感動しますね。

田んぼの受託作業増加

大神　昨年就任したばかりで営農に関する助言はできませんが、商業、広告業、不動産業は経験しているので、商品を消費者に届けるときにどのくらいで買ってくれるか、この値段で買ってもらうにはどうしたらいいかという部分ではアドバイスができるのではと思います。出身は日出町で日出小、中学校に通いました。入社して23～24年がたち、ずっと地元を離れていましたが、地元の役に立てればと思っています。

森　ミカンを中心にした果樹農園の3代目です。ミカンは施設栽培と露地栽培の両方ができるようにしています。かれこれ50年近く続いていますが、祖父が徳島県の出身で、杵築市がパイロット事業と称して山を開墾してミカン畑にしていたころに山を買ったと聞いています。ミカン農家はミカン、ポンカン、ハッサク、デコポンと、1年中果実を採るサイクルが多いんですが、うちはミカン一本。全部で4種類くらいあり、一つずつを充実させています。消費者から信頼される果樹の専門家になりたいので、知識を得るためにオリーブやザクロ、ウメ、ビワも小さく植えている。趣味ということで（笑）。

若手リーダー
みかん生産（森農園）
森 和之 さん

松井　農林課は7年目で、今年から集落営農と6次産業の担当をしています。

吉良　杵築市内の集落営農の組織化はうまく進んでいますか。

松井　2006～2007年に20組織くらいできて、現在は21組織。農家の高齢化で集落営農を考えたいという相談が増え、年に10件近くあります。

佐藤　当初は元気がよかった人が80歳近くになり、身体が動かない、息子も都会から帰ってこないから、稲刈りや田植えをしてほしい、田んぼを任せたいといった受託作業が増えています。

若手リーダー
農事組合法人こめ・こめ・くらぶ
佐藤幸生 さん

田畑　後継者グループ「山香町農業青年会議」には35歳以下が僕を入れて4人しかいない。酪農ばかりで、コメ、野菜、花を専業でやっている人はいません。

吉良　コメと酪農の違いは。

田畑　昔はもうかっていた。今は人口減少で牛乳の消費量が減っていて厳しい。牛乳は学校給食での消費が大きいので、少子化の影響をかなり受けている。ただ、今は牛乳が足りません。需要が増えたのではなく生産量が落ちている。猛暑で北海道の牛が倒れ、宮崎県では口蹄疫で倒れた。日本全土で肉牛も乳牛も足りない状況です。

パッケージで付加価値

吉良　乳搾りを体験して牛乳を飲めるようになったという人の体験を情報として発信することは大切ですね。生産者が日々研さんして作った製品にうまく付加価値をつけて売っていくのに、何が必要でしょうか。

大神　生産現場の努力に応えるために、経営側はいかに高く売るかを考えています。例えばニラでいうと、スーパーで売られる値段は出荷時の8倍。販路を考え、もっと客に直接売ることができれば稼げる。牛乳が足りないのに値段は下がるというのは不思議な話ですね。コスト構成を業界全体で考える必要がありそうですね。

田畑　基本的に乳価は九州生乳販売農業協同組合連合会という団体と乳業メーカーが交渉する複雑な構造で、僕らがメーカーと直接交渉はできないのが現状です。

大神　私は農業の構造を変えたいという一つの野望を持っています。

吉良　ところで、JR九州ファーム大分が作っている甘夏を使ったジュースは瓶で売るだけでなく、ストーリーを貼って値段をプラスするなど工夫をしているそうですね。

大神　昨年作ったジュースは原価を積み上げていくと800円くらいで売らないと元が取れない。完熟を使った100％ストレートで本当においしい。自信はありましたが売るには苦労しました。今年は何とかしなくてはとパッケージを作り、中元用のセット商品も出します。経営している温泉旅館「花べっぷ」（別府市）で先行販売したらよく売れているので、「花べっぷでも人気のジュースとマーマレード」というううたい文句でラベリングして。製品化して物語を作り、付加価値を付ければ高く売れるのではと思っています。

アドバイザー
JR九州ファーム大分代表取締役社長
大神健二 さん

ロット維持し産地守る

吉良　ミカンはどうでしょうか。

森　杵築のミカンも足りませんね。大分県のハウスミカンの生産量は全国第3位で佐賀県がナンバーワン。大分県の総生産量は千㌧ですが、この量を切ると今の流通形態では相手にしてもらえなくなるというプレッシャーを感じています。杵築市の若手生産者は9人で一番下は22歳。最低限のロットを守りきる力がないと他の果物にやられてしまいます。モモ、ブドウ、ナシなど、夏から秋にかけて果物はたくさんあるので、ミカンがなくても困らないかもしれませんが、今までいろいろな人たちが確保してきた「スーパーのミカンの棚」、産地の歴史を捨てるのはもったいない。杵築のミカンがお客に届く過程の全てを担っているという認識の下で産地を守らなくてはと思っています。

吉良　千㌧を切ると相手にされなくなるというのは、大分のミカンというブランドを維持できなくなるということですか。

森　ある程度単価が取れる流通に乗せられないということです。例えば大分のポンカンがイオンと直接取引をしているのは、求められるクオリティーや生産体制、ロットがあるから。多くの人に食べてもらいたいと思えば、そういう要求に応えていかないといけない。

全員でレベルアップを

吉良　量を増やすために、県の開発した手法を取り入れているとか。

森　県の試験場で開発したミカンの苗木を育てていて、収穫は2年後を目指しています。それは理論上は単収が倍になる。現在の単収はハウスで平均5㌧。10㌧という数字は出したい。

吉良　他のミカン農家も取り入れていますか。

森　うちが最初です。果樹は木の育成に時間がかかり、植えてもすぐには収穫できないし、最初の年にマックスの量が獲れるわけでもない。2桁近く年数をかけてマックスになるまでの収入を何で埋めるかを考えると、なかなか手が出ない。

吉良　経費は相当掛かりますか。

森　要は気持ちですね。新技術も見学した若手はみんないいと言ったんですが、帰ると親に「今の木を切ってゼロからスタートするなんて」と言われて尻込みする。僕は同世代の農家に「この現状から一歩踏み出した、結果はこうだよ」と見せたい。ナマコで例え話をするんですが、あれを初めて食べた人はすごい。誰かが食べておいしいと分かったからみんなが食べている。新技術も誰かが取り入れないと、いいか悪いか分からない。全員でレベルアップしていきたいと思いますから。

意欲を持つ機会づくり

吉良　新しいことを根付かせていく、生産者がリスクにチャレンジしてもらうのは難しいと思いますが、市からできるバックアップは。

松井　コメで言えば、コスト削減や規模拡大のために集落営農を勧めています。税の控除といった制度を知らせたり、6次産業など新しいことに取り組む意欲を持ってもらえる機会づくりや広報が行政としてのまず一歩かなと。

若手リーダー
杵築市農林課農政係主査
松井博照 さん

吉良　杵築で生まれたいいものを売っていくときにハード、ソフト面で何が必要ですか。

大神　産直施設がほしいですね。売る場所があるのは生産者のモチベーションになる。ここに置けるという棚のイメージがあれば安心して作れると思います。

松井　杵築にも産直施設はありますが、どういうイメージの施設ですか。

大神　人の通りが多く、駐車場が広く取れるといった好立地は地代が高いので、一つはそういう所にある自治体や農協など、既存のネットワークや資源を利用するのが早い。本格的な事業となると、生産者や個人事業主が手を出すには資本力が必要でリスクも高い。運営は指定管理者とか請け負ってくれる法人を探すとか。

吉良　統廃合で残っている学校跡などは。

大神　PRが必要で認知に時間が掛かりますが、維持コストが安ければできるかもしれません。

牧場に素晴らしい風景

吉良　話は変わりますが、国東半島宇佐地域が世界農業遺産に認定されたことは産品を売る機会に利用できますか。可能性と課題を。

松井　シイタケはブランド認証しています。県などと今後、コメや酒を認証する計画をしていますが、基準づくりに苦慮しています。高くすると参入しにくいし、低くすると価値がなくなる。量が必要になるので、杵築だけでなく関係市町村が一体となって取り組む必要があります。

大神　先日田畑さんの牧場を訪れた時、山香に素晴らしい景色があると知りました。佐藤さんの田んぼもきれいだった。農業遺産になるのが分かります。これだけの農村や牧場の風景を抱えているのは一つのストーリーになると思いました

田畑　筑波大学の学生を夏休みなどに受け入れているんですが、みんな景色に感動する。じいちゃんたちが切り開いてきた証しです。6次産業化の話が出ていますが、僕は酪農というストーリーを商品として売り出そうと考えている。小学生や保育園、幼稚園児には1日の体験で牛乳のことや命の尊さを知ってもらい、大学生たちは宿泊で受け入れて、酪農家のストーリーを知ってもらう。

大神　田畑さん、それは正しい。6次化というのは商品を作ることだけではなく、いかに消費者を自分のところに引き寄せるかだと思います。

田畑　生き物を飼っていて一日フル回転で働いていると時間がないので来てほしい。僕の所属している団体の企画ですが、8月に野菜収穫や搾乳、ソーセージ作り体験などを組み合わせたイベントをします。

松井　考え方が変わります。体験農園も一つの6次産業化ですね。

田畑　農業教育はボランティアが多い。田植え体験も塾に行くのと同じじゃないかと。うちは受け入れる時にお金をもらいます。

松井　施設や加工品を作るのは大変だが、そういう取り組みなら始められそう。行政も情報を知らないといけませんね。

大神　旅館のお客にそういう情報はありがたい。

シイタケの観光農園を

吉良　分科会のキーワードを出していこうと思います。商品の「ストーリー性」というのは一つのキーワードかなと。森さんの「やってみる、一歩前へ」という話も印象的でした。来年7月から9月まで、県内の官民とJRグループが連携した「おんせん県おおいたデスティネーションキャンペーン」があるので、この時期にPRするとよさそうです。

コーディネーター
大分合同新聞記者
吉良政宣

大神　来年は大分駅ビルも開業するので当たり年ですね。

吉良　佐藤さんはこれからやりたいことは。

佐藤　シイタケの観光農園を作る企画があります。会社から失敗してもいいから、冬場にもうける方法を考えろと言われていて（笑）。

松井　個人で新規就農するとリスクがありますが、「こめ・こめ・くらぶ」のように法人が新しい農業者を雇用すると社員になるからリスクは少ない。起業という面でもいいと思います。

吉良　たくさんのいいメッセージをいただきました。ありがとうございました。

ひとのときを、想う。JT

JTでは、分煙方法について知見提供・提案・アドバイスを無料にて実施しています。例えば…

- □ オフィスに喫煙室を造りたいけど、どうすれば…
- □ 飲食店で喫煙席と禁煙席を分ける際のポイントは…
- □ 喫煙室からのニオイの漏れを改善したいのだけど…
- □ 床にたばこの焦げ跡の付かない対策は…
- □ 分煙機について知りたい。
- □ 分煙の事例を紹介して欲しい。
- □ 喫煙マナーを啓発できるポスターが欲しい。

分煙に関する取り組みや手法にお悩みの方は、下記までお問い合わせください。

お問い合わせ
日本たばこ産業株式会社　大分営業所　社会環境推進担当
大分市新貝1-10 TEL.097-552-7171
営業時間／平日9:00～17:40